

校名：北海道教育大学附属特別支援学校

所在地：〒041-0806 函館市美原 3-48-1

電話番号：0138-46-2515

記載日：2016年5月20日

記載者：平田新次郎

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：



本校は、昭和48年、附属函館小・中学校に特殊学級として開設され、昭和51年、北海道教育大学教育学部附属養護学校として開校しました。以来、30数年にわたり、本校は知的障がい及び自閉症の児童生徒を教育（指導・支援）することを目的とし、北海道教育大学唯一の附属の特別支援学校（平成19年より校名を北海道教育大学附属特別支援学校に変更し、現在に至る）として、大学との教育研究の推進や教育実習の受け入れ、地域への様々な貢献を使命としています。

貴校の卒業生の活躍状況について：

生涯支援という形で、卒業後も進路担当を中心として同窓会活動を年に3回行い、そこで卒業生の活躍状況を把握しています。また、夏季休業期間中に、全教員で分担して、お世話になっている職場を訪問し、卒業生の様子を把握しています。来校しての相談支援や必要に応じて巡回相談も行っています。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

函館附属4校園の同人会組織を中心として、各校園で、異動後の活躍状況を把握しています。異動後は、一般の教諭として、教頭及び校長として、また、行政の指導主事として、退職後も含めて大学の准教授や教授として、地域の特別支援教育の中心として活躍しています。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

「より魅力ある附属学校にするために」本校の主な取り組み（これまでとこれから）

※毎年度開催している公開研究協議会や研修会のほかの取り組み

○きりのめキッズクラブ ※本学と連携し、学生の臨床経験の場としても利用

- ・通年事業（H22～H27年度）月2回程度実施
- ・幼稚園、保育園の就学前の幼児10名程度
- ・特別な支援を必要としている幼児早期支援教室

※本年度からは大学主体の取り組みに変更

○きりのめサロン

- ・年3回実施（H22年度～） ※子育てサロンから独立
- ・幼稚園、保育園の支援者（保育士、教員）10名程度
- ・幼稚園や保育園の活動場面で困難さや困り感を感じている支援者のための研修
幼児の支援や実践について幅広く学び、相互に情報や実践を交流する機会とする。
本研修を通して、幼児支援にかかわる地域の多様な機関とのつながりを作る。

○子育てサロン

- ・年3回実施（H19～H21年度）
- ・幼稚園、保育園に在籍または卒業した保護者10名程度
- ・幼稚園、保育園に在籍または卒業した保護者の悩みや成功体験を共有できる場の提供

○きりのめトレーニングセミナー（H27年度までのスキルアップセミナー）

- ・年5回、I期からV期に分けて同内容で、1日半の日程で実施（H20年度～）
- ・保育士や幼稚園教諭、施設職員等、各期数名程度
- ・主に特別支援に関する経験の浅い保育者を対象に、支援に関する知識や技術を深めることを目的とした体験型研修

○福祉事業所等との合同研修会

- ・年2回実施（H20年度～）
- ・近郊の福祉事業所職員10名程度
- ・地域支援の一環として、地域と共同した生徒支援、進路支援等のより良い方策を検討する研修会

○きりのめ特別支援教育研修会（※学長裁量経費利用）

- ・年1回実施（H17年度～）H23年度は黒松内町、H22年度は江差町、H21年度は乙部町、H20年度は江差町、H19年度は新ひだか町、H18年度は釧路市、H17年度は北見市で実施
- ・幼稚園教諭、保育士および療育関係者、小中学校教諭等20名程度
- ・本校における「一人一人の教育的ニーズに応じた支援」の実践および研究成果の普及を図り、自閉症のある子どもの教育の充実、発展に寄与するとともに、本学における地域貢献の研究について、課題を整理し、解決の方向性を見出す。

○その他

※H22 年度より、本校の研究成果を本学紀要への投稿および日本特殊教育学会や北海道特別支援教育学会でシンポジウムやポスター発表を継続して行っています。

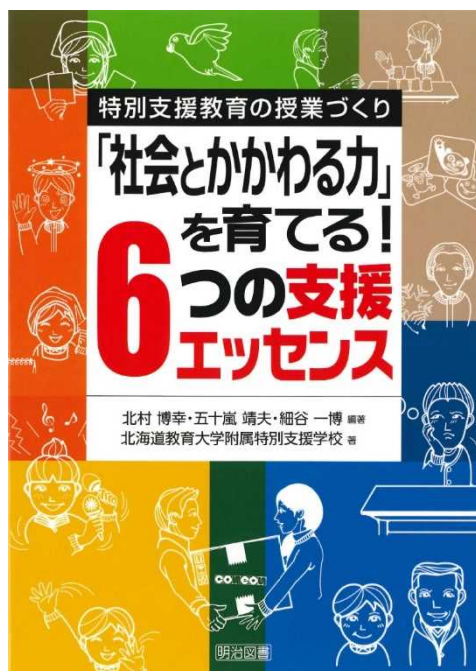
※H24 年度より、「特別支援教育における現職教員のための臨床研修」に関する研究プロジェクトとして、本大学スタッフと共同研究を進め、H25 年度より、「特別支援教育における現職教員のための臨床研修会」として、3日半の日程で研修会を行っています。

- ・対象は、特別支援教育に関心をもつ全国の教職員を研修生とし、小学部、中学部、高等部各4名
- ・研修内容は、チェックリストに基づく子ども理解、ティーム・ティーチングによる授業づくり、ディスカッションによる支援の振り返りを行い、日々の具体的支援につなげていきます。

※H25 年度には、本学函館校の臨床分野の先生方の協力を得て、本校の研究（H21～23 年度）をまとめ直し、『『社会とかかわる力』を育てる 6 つの支援エッセンス』として、明治図書より刊行し、全国からの問い合わせに対応することができました。

※H27 年度、北海道立函館美術館の常設展「ミュージアム・コレクション・スペシャル 文字と記号の織りなす世界」と本校の卒業生2名と高等部在校生の5名の作品をコラボ展示していただき、「北海道教育大学附属特別支援学校 六つのものがたり～ぼくたちはアートでつながっている」として、1/30～4/7 まで開催しました。

- ・美術を通して、人と人がつながり、互いに理解を深めること（障害児・者への理解啓発）と、本校の美術の取り組みを保護者、大学、地域へ広め、本校の存在意義を高めることをねらいとして実施しました。



今後も以上のような取り組みを計画し、実践し、評価、改善を繰り返しながら本校の特色ある様々な取り組みとして、地域に広め、還元していきたいと考えています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域においては、5年くらい前までは、入学希望者が定員を下回る状態が見られることがあり、その改善策として、広報業務に力を入れてきました。学校案内や学部案内を刷新し、関係機関に配布しました。また、学校関係者向けの学校見学会や学部見学会の回数を増やしたり、地域のFMラジオに出演し、リスナーに学校のことを知ってもらったり、ケーブルTVに学校行事の取材をお願いしたりし、地域に存在する学校としての知名度を上げていきました。前年度は、先に述べた北海道立函館美術館とのコラボ展示を開催し、本校卒業生や在校生のアート作品を通じて、障害児・者の理解につなげることができました。こういった活動の成果があり、近年は、入学希望者も増加の傾向にあり、地域に必要とされる学校として位置付けてきました。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校の任務や役割は、以下の4点です。

- ・本校は、特別支援学校として本校学校教育目標に基づき、知的障がい及び自閉症の児童生徒に対し、小学校、中学校、高等学校の教育課程に準じ、一貫した教育課程により、可能な限りの社会参加と自立を目指し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行う。
- ・大学の附属学校として、障がいのある児童生徒の教育の理論及び指導・支援の実際に関する実証的実践研究を行う。
- ・特別支援教育のセンター的機能の充実に努め、実践的な研究を推進する。
- ・本学学生等の教育実習を行う。

一点目は、知的障がいの特別支援学校として、道南地域の障がいのある児童生徒の『将来の幸せな生活の実現』のために指導・支援を行う学校として、二点目は、北海道唯一の大学附属の特別支援学校として、その先導的研究実践を行う学校として、三点目は、地域の特別支援教育の中心的な役割を果たす学校として、四点目は、道南地域のみならず、北海道の特別支援教育を目指す学生（年間約60名）の教育実習を担う学校として、先に述べた研究会、研修会を始め、様々な取り組みからも、道南地域及び北海道にはなくてはならない学校として存在していると自負しています。